

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

中心市街地活性化の事業を推進するにあたり、市民団体の参画による実践的・試行的な活動を実施しているところである。

●すながわスイートロード事業をベースにした実践的活動について

すながわスイートロード事業は、お菓子をはじめとする砂川市の魅力を活かし「まちのイメージアップ」と「市内外消費者の誘致」を図ることを目的として、複数の市民団体が参画し砂川市の活性化に資する事業を展開している。特に次のような、中心市街地の賑わいを意識した実践的事業を実施しているところである。

○砂川は古くから菓子産業が盛んであることから、この集客力を中心市街地の活性化に繋げることを目的に平成15年度から様々な取り組みに挑戦をしている。なかでも、体験型事業の、菓子店主が講師となり市民にお菓子作りを楽しんでもらう「野焼きパン講座」「飛び出せスイーツ絵本からの贈り物」は小学生とその保護者から好評を得ており、両事業とも毎回20名以上の参加があり、市民が商業者の技術を学ぶとともに体験型の触れ合いの場を求めていることが裏付けられたところから、匠のものづくり学校として事業化をしていくこととする。



○ “空店舗を活用した事業の可能性を探る”という目的で、昨年8月に商店会と消費者でもある農業生産団体の婦人部との共同で「午前市」が開催された。当日は婦人部による取れたて野菜の販売のほか、当該空店舗の在庫品セールを行ったところ100人以上が買物に訪れ、来店者からは今後も同様の事業を望む声が数多く聞かれた。今後は、野菜以外にも商店街の各種商品、市内の特産品などを販売するとともに将来的にはコミュニティスペースとしての発展も視野に入れている。

また、自立支援センター（授産施設）内にある「くるみ共同作業所」では、技術習得による自立促進を目的として平成18年より生徒によるパン作り、さらにはセンターに併設された喫茶店において販売も行われているが、本年7月からは週2回、商店街にある店舗一角の空きスペースを活用して、試行的ではあるが出張販売も行っている。これが常設化さらには空店舗を活用した事業に発展すれば、前述の喫茶店も取り込んだコミュニティスペースとしての形成も可能である。

○従来砂川市内のみを目的とした観光ツアーは考えることすらできなかったが、平成 15 年度より「砂川のお菓子の魅力でまちのイメージアップと市内外消費者の誘致」を目的とするすながわスイーツロード事業を実施したことにより平成 18 年度には北海道新聞社「道新ぶんぶんクラブ」主催の観光バスツアー「砂川スイーツロードとソメスサドルを巡る旅」が実現し、合計 9 回、約 380 名が砂川市内でのショッピングを目的に訪れた。

本事業の実施当初において、参加者から「いままで通過するだけであった砂川市の魅力をもっと知りたい」との意見が多く寄せられたことを受け、菓子店のみを周回させるだけのツアーに止まっていたとの反省からスイーツロード協議会で検討の結果、同協議会員がバスに添乗し、まちの歴史や見所を案内すること、ならびにツアーのコースに市民の憩いの場であり、眺望に優れたオアシスパークを加える改善を平成 18 年度のツアー後半から試験的に行ったところである。

協議会員のボランティアによる観光案内は、参加者に当市への親しみを感ずってもらうとともに協議会員自らの接遇向上と商工振興に対する意識改善が図られる効果を生んでいる。また、オアシスパークについてはウォーターヒルズスクエアの屋上からの展望が女性を中心とした参加者から好評を得ている。これら試験的改善点は中心市街地の活性化に大きな効果をもたらすものと判断し、平成 19 年度からはバスに添乗した観光案内とオアシスパークへの周回を定番の取り組みとしてツアーに組み入れることとした。

本事業は平成 19 年度も実施が決定しており、今後も継続的な観光客誘致事業として定着化に向けて主催者に対し積極的な働きかけをしていくこととする。

○砂川青年会議所においては平成 19 年度の事業計画として中心市街地商店街の活性化策に重点をおくこととなった。平成 19 年 3 月 7 日、6 月 4 日に砂川青年会議所主催による「商店街の現状と課題」をテーマとした、砂川商店会連合会、市商工労働観光課との 3 者による中心市街地活性化に向けての意見交換会を実施し、特にスイーツロード協議会に参画している消費者や主婦中心の団体から「小規模店は大型店に比べ気楽に入店しづらく、砂川市に住んでいても中心市街地の中に入ったことのないお店がたくさんある。」という意見が多く、その点を解消する事業の実施が望まれていることを重視し、打開策に繋がる事業を検討した。

その結果、商店会連合会より、買物目的でなくても店の中に入ってもらい、店主と消費者のコミュニケーションを図るという「ひやかしスタンプラリー」を実施し、さらに店舗の印象を含めたアンケートを実施して問題点や消費者ニーズを把握し、魅力ある商店街づくりを図っていくという案が提示され、3 者により、平成 19 年度に試行的実施に向けて取り組んでいくことが確認された。

この事業は中心市街地回遊策として事業化の検討をしていくこととする。

[2] 都市計画との調和等

①砂川市第5期総合計画との整合

◆めざす都市像

四季折々の季節感豊かな美しい自然に恵まれたこの砂川を個性的で潤いのある都市とするために、また、「住んで良かった、ふるさと砂川」となるようすべての市民が心と力をあわせ創りあげていく都市の未来像を「安らぎと活力にみちた快適環境都市」と定め、この実現にむけて都市づくりを進める。

◆ 都市づくりの重点課題の推進

1 まちなか活性化の推進

- ・ 商店街の魅力を高める
- ・ 快適な都市生活の確保を図る
- ・ 中心市街地の活気と賑わいを生み出す
- ・ 駅東部の開発推進
- ・ 市街地の高度利用と東西アクセスの向上を図る

2 活力ある産業の推進

- ・ 観光資源の開発、イベント事業の推進
- ・ 雇用の安定確保に結びつく事業の創出
- ・ 企業誘致活動の推進

3 心ふれあう福祉社会づくりの推進

- ・ 高齢者の社会参加支援
- ・ 安心して生み育てられ、子どもが生き生きと育つ環境づくりの推進

4 環境重視型社会の推進

- ・ ごみの分別収集の推進
- ・ ごみの減量化、資源化、再利用により環境にやさしい（循環型社会）まちづくりの推進

5 市立病院改築の促進

- ・ 高度医療に対応するスタッフの資質向上と医療機器などの整備の推進
- ・ 広域的医療も視野に入れ、改築整備に積極的に取り組む

②【砂川都市計画区域の整備、開発および保全の方針】（再掲）

◆都市づくりの基本理念

（１）都市の現状と課題

本市は北海道のほぼ中央に位置し、東は夕張山系を境に赤平市、歌志内市、上砂川町に隣接した丘陵地帯が続き、西は石狩川を挟んで新十津川町に、北は空知川を挟んで滝川市に、南は奈井江町に接し、道央圏中空知中部地域に属しており、東部はなだらかな丘陵地帯で西部に向けて傾斜し、南部と北部は平地となっている。

本地域の市街地中心部は平地地帯と石狩川の間に南北に細長く展開し、中央をＪＲ函館本線、国道１２号と道央自動車道が南北縦貫している。

人口は減少傾向で少子高齢化が進んでおり、また商業形態の変化と車社会の影響により、商店街の衰退と空洞化が進み、中心市街地の活力が低下しており、まちなか居住や中心市街地の活性化が求められている。

産業は多種多様な業種で構成され、地域の経済や雇用に大きな役割を果たしているが、近年の経済の停滞等により、厳しい環境に置かれており、今後においては地域の活性化や雇用機会の確保のため、新規企業への誘致活動の展開を図ることはもとより、地場企業による規模の拡大や地域に根ざした企業の創出と情報産業などの先端産業の誘導も視野に入れながら誘致を図る必要がある。

（２）都市づくりの基本理念

総合計画の目指す都市像である「安らぎと活力にみちた快適環境都市」の実現に向けた方策の一翼を担うとともに、今後の本市の都市計画において長期的な将来展望であり根幹となる５つの基本理念を次のとおりとする。

- ①快適な環境の確保
- ②時代背景に対する的確な対応
- ③広域的な連携の強化
- ④環境重視型社会への対応
- ⑤市民参加の推進

コンパクトなまちづくりを推進するという方針のもと、砂川市都市計画マスタープランを平成２３年度に改定する予定である。

[3] その他の事項

本計画に掲げた各種事業等の計画及び実施にあたっては、良好な環境の保全、交通の安全と円滑の確保等に影響がないよう配慮していく。